

木村優氏 基調講演「教師の専門職像の葛藤を乗り越える —学部と教職大学院の価値ある接続に向けて」の報告—

黒田 恭史

京都教育大学教職大学院 教科研究開発高度化系

1. はじめに

2024年度実践報告フォーラムの基調講演は、福井大学大学院連合教職開発研究科研究科長の木村優教授にご登壇いただき、表題のテーマで講演願った。以下、その講演概要について、実際のスライドを交えながら報告する。

2. 教師（教職）は専門職ですか？

講演の冒頭、参加者に「教師（教職）は専門職ですか？ 専門職だとしたら、どのような専門職ですか？ 教師の専門性とは何ですか？」という問いが投げかけられ、参加者の間で議論することが促された。多くの参加者が「教師は専門職である」ということを当然の前提としてきたものの、「どのような専門職であるのか」、「教師の専門性とは何か」という問いに移ると、たちまち議論が行き詰まるといった状況が生じた。

参加者はこうした問いを抱きつつ、木村氏からは「現代日本の大学における教員養成の変遷」（図1）、に即して講演が展開された。教員養成の変遷では、各時代に生まれてきた教員養成の理念が複数存在し、それらが今日においても根強く残っており、研究者や教員を含め、自身が教員養成を実体験してきた時期によって、その捉え方に違いが見られることが指摘された。

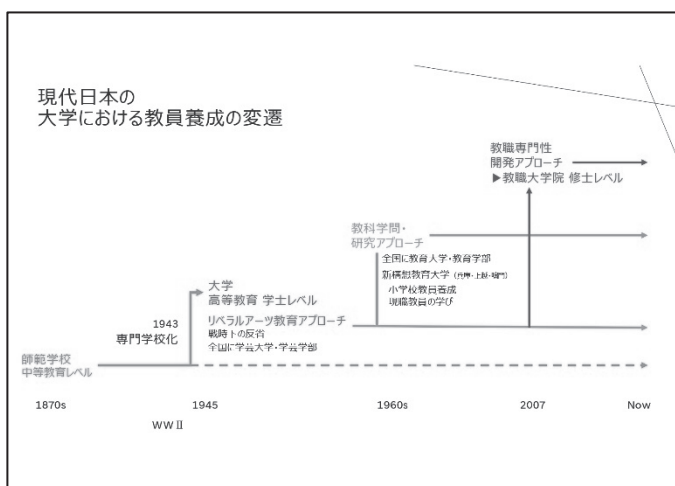


図1 現代日本の大学における教員養成の変遷

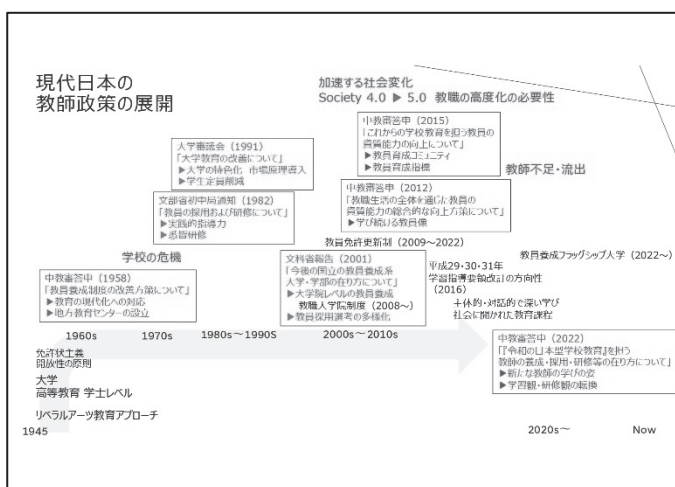


図2 現代日本の教師政策の展開

また、「現代日本の教師政策の展開」（図2）を概観したスライドをもとに、1960年代以降、その時代における望ましい教師像に向けた政策について解説がなされた。そして、Society 5.0へと加速する現在の社会変化の中であって、改めて、教師（教職）の専門職としての今日的な中身が問われていることが導かれた。

3. 専門職としての教師をめぐる動向

専門職としての教師の研究については、「専門職としての教師をめぐる研究の展開と付置」（図3）において4つの流れに分類整理している。それらは「認知プロセス・思考様式」、「知識（実践知）」、「情動・動機（意欲）」、「信念・コミットメント」であり、こうした観点から教師研究が進められてきた。

佐藤学を引用しながら、横軸として脱専門職化と専門職化、縦軸として官僚化と民主化をキーワードとして、「脱専門職化+官僚化」を公僕としての教師、「脱専門職化+民主化」を労働者としての教師、「専門職化+官僚化」を技術的熟達者としての教師とラベリングした上で、「専門職化+民主化」を省察的実践者としての教師と置き、ここにこれからの教師の一つのモデル像を求めている（図4）。

この視点に立って教師の仕事の特徴を捉え直すとき、「個人主義+現在主義=保守主義」に向かうのではなく、「協働+未来志向=変革主義」へとベクトルを向けることが重要であると説く。

4. 「孤立する専門職から協働する専門職へ」から「協働する専門職から協創する専門職へ」

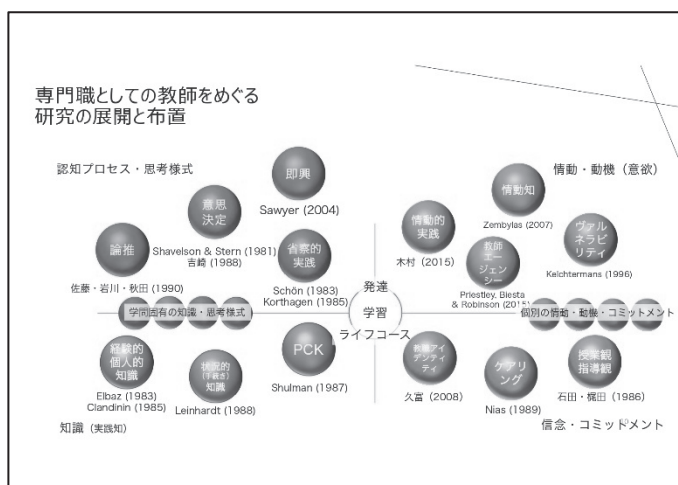


図3 専門職としての教師をめぐる研究の展開と付置

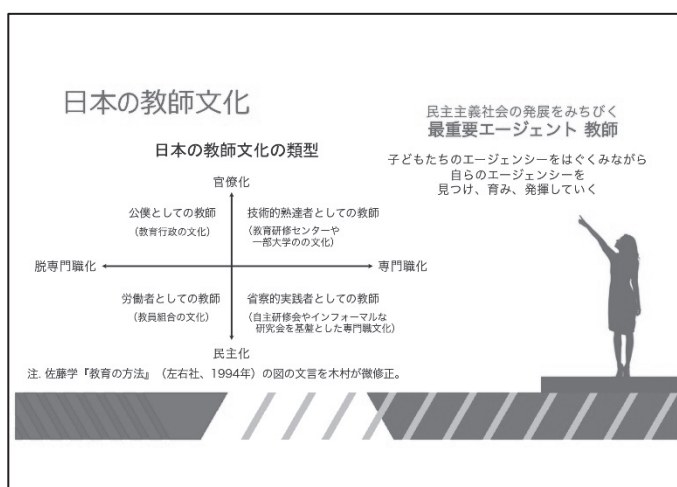


図4 専門職としての教師をめぐる研究の展開と付置

ここにおいての資質能力に大きく依存する「孤立する専門職」では、日常的に生じる学校現場での問題に対して、孤立するが故に解決に向かうのではなく、不安や恐怖といったネガティブな方向へと向かいがちであり、さらには、それを打開する方策が見いだせない。こうした状況からのパラダイムシフトのキーワードとして、チーム力を基調とする「協働する専門職」では、不安が安心に、また恐怖が自信に変容し、構成員間の相互の信頼関係のもとで、学校現場での問題が解決に向けて動き始めるようになる（図5）。

さらには、学習者をも学校の担い手として位置づけ、組織における協創力を生み出す原動力の一つへとトランスフォーメーションさせる「協創する専門職」では、学び手と教え手が相互扶助の関係を築くことで、新たな学校のあり方を指向する。そこでは、当該組織に帰属する誇りを抱き、ウェルビーイングな生き方へとつなげていくことが期待される。

5. 学部と教職大学院の価値ある接続に向けて

学部から教職大学院の価値ある接続に向けては、「社会関係資本」の観点から学部と大学院の有り方を改めて捉え直す必要があるとする。

ここでいう「社会関係資本」とは、協創する専門職を実現する上で前提となる、学校を取り巻く様々な人々（学習者含む）とのつながりと、そこから生じる互酬性（お返し精神）と信頼性（頼れる、委ねる精神）といった規範を指しており、これを基盤に組織（学校）を構築することであ

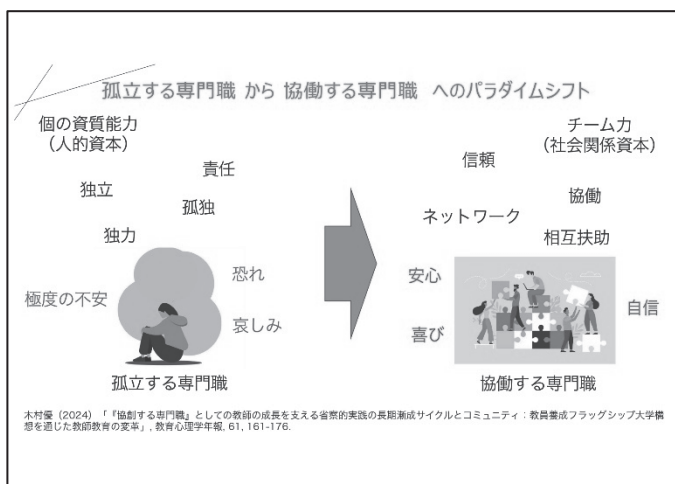


図5 孤立する専門職から協働する専門職

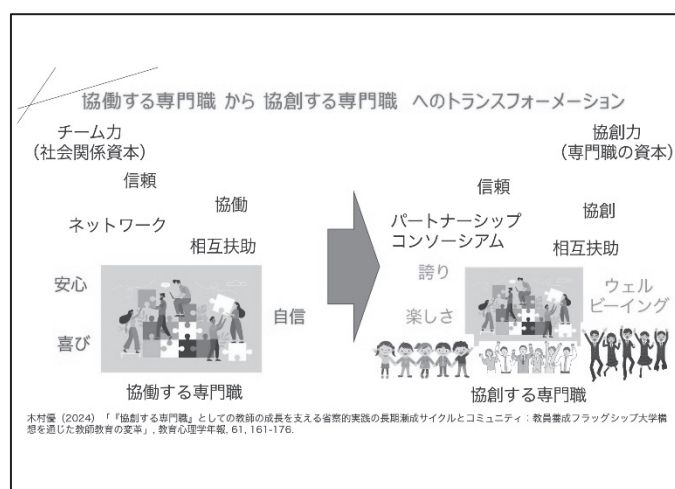


図6 協働する専門職から協創する専門職

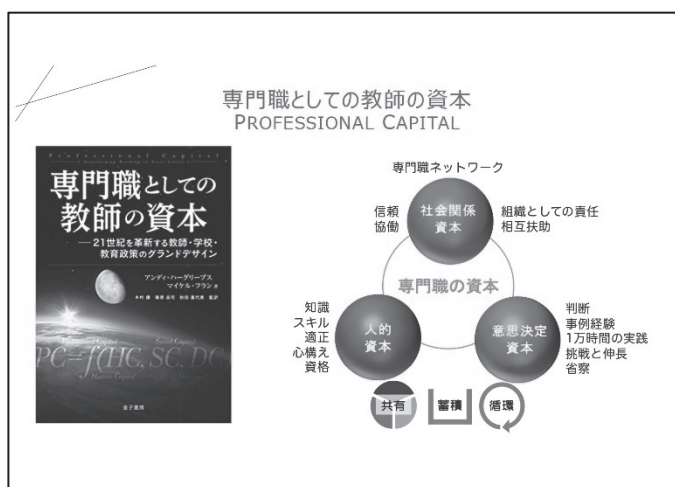


図7 協働する専門職から協創する専門職

る。そこに、「人的資本」といった、知識やスキルによって価値を生み出す人を資本と見なす考え方と、「意思決定資本」といった、個人や組織の決断力や、決断してきた経験値の蓄積などが組み合わさることによって、未来の学校像が浮かび上がってくるとする（図7）。

そして、未来の学校を構築するために必要な教員の養成のあり方を、学部と大学院を接続・一体化しながら検討していくことが、今後重要だとの指摘がなされた。

注：図1～図7のスライドは、木村優氏が基調講演で使用したものであり、今回許可を得て掲載されている。